

深谷市における地域支援事業の 連携・連動の模索

令和5年度 介護予防活動普及展開事業に係る
都道府県等介護予防担当者会議

深谷市 長寿福祉課
荳塚 浩美



0. 高齢者を取り巻く深谷市の状況



埼玉県北部で、群馬県と隣接。利根川と荒川が流れている。平成18年に岡部町、川本町、花園町と合併した。



深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム

ふかや花園プレミアム・アウトレット



深谷テラスパーク

ふかや花園駅

令和4年春にキューピー株式会社の「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」、令和4年秋に三菱地所・サイモン株式会社の「(仮称)ふかや花園プレミアム・アウトレット」のオープン予定



令和2年7月 新庁舎完成



深谷市の地目別面積 (平成31年4月1日現在、単位：ha)

資料:資産税課 概要調書(平成31年度)

	総面積	田	畑	宅地	沼地	山林	原野	雑種地	その他
面積	13,837.0	1739.0	4799.8	3296.1	3.6	390.3	38.2	684.7	2885.3
構成比	100.0%	12.6%	34.7%	23.8%	0.0%	2.8%	0.3%	4.9%	20.9%

0. 高齢者を取り巻く深谷市の状況

介護保険事業：

大里広域市町村圏組合

(熊谷市、深谷市、寄居町で組む、一部事務組合)で運営している。

地域支援事業は、各構成市町が実施している。



熊谷市



深谷市



寄居町

1.厚生労働省職員派遣による市町村支援

■あるべき姿

※エントリーシートより

・要介護・要支援の認定申請を行う前のステップとして活用できる、**事業を段階的に設置し、住民にとって選択肢が多くある**。また、同時に、市内の介護保険事業者と共同し、介護予防・重度化防止に向けた「自立支援」の考えを共有したうえで、住民が安心して、住み慣れた地域で暮らせる環境が、整備されている。

■現状(令和3年度当初)

- ・介護保険の保険者が広域組合であるが、地域支援事業は、構成市町が実施している。
- ・ニーズとして、だれでも通える介護予防教室の設置の声があるため、**本年度より、一般介護予防事業として、「元気ふっかつ教室」を設置**した。
- ・総合事業の通所型サービスは、従前相当のみであり、訪問型サービスは従前相当とサービスCである。
- ・総合事業の展開として、訪問型サービスCが最も早く設定されたが、事業の理解と周知が進まず、利用者数は毎年、10件を切っている状況が続いている。
- ・**被保険者の状態に合わせたサービスの選択は、選択肢がなく、要支援・要介護認定か基本チェックリスト該当に頼っている。**

■課題

- ・介護予防に取り組みたいと思ったときに、「通いの場」か、総合事業の従前サービス、**介護保険認定申請をする以外の選択肢がない**。

■取り組みたいこと

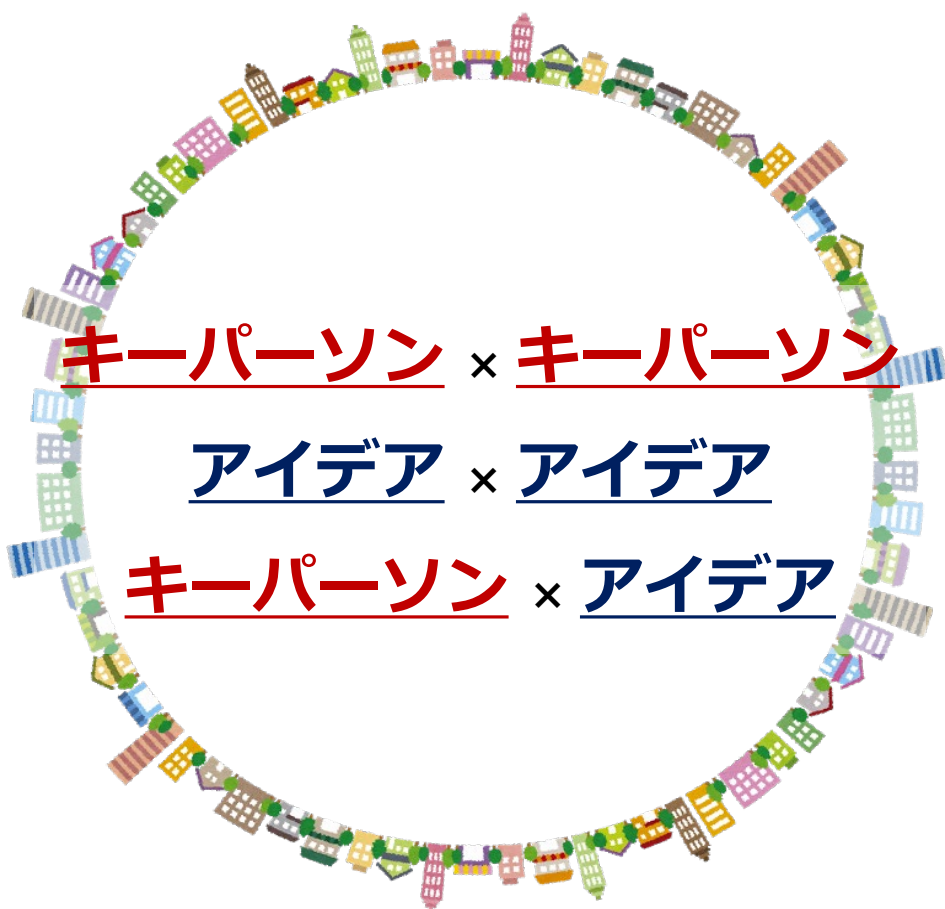
- ・介護予防に取り組みたいと思ったときに、より多くの選択肢があり、**段階的な経過を経て、介護保険認定申請へつながる仕組みづくり**。
- ・地域リハビリテーション活動支援事業において、専門職がケアマネジャーや事業所を支援する仕組みづくりを検討したい。

多様な選択肢をどうしたらつくっていけるのだろうか…

1.厚生労働省職員派遣による市町村支援

深谷市への支援は、単発支援。どう活用する？

→ いろいろ課題はあるけれど、化学反応にかけてみよう！



【ステップ1】

- 深谷市の思いを伝えよう！！
- 支援者がたくさんいるし、優秀なキーパーソンもいるから、交わってみよう！！



【ステップ2】

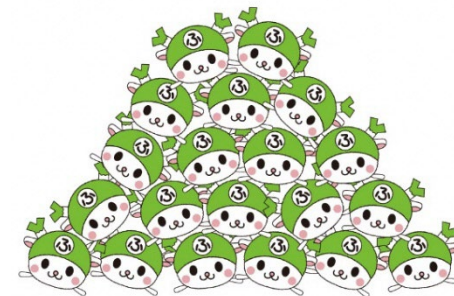
- 表現したからには、やってみよう！
- 情報交換会の中で、到達した思考のゴールに向かって、やってみよう！！

1.厚生労働省職員派遣による市町村支援

単発支援では、情報交換会をおこなう

■ねらい:

- ①各事業の相互理解
- ②化学反応による、事業の連携・連動の具体策を考える



■方法:情報交換会の開催

- ①深谷市で種まきしている事業展開を知ってもらう
- ②田中明美さんからアイデアを育てる肥料をまいてもらう
- ③参加者みんなで、種を育てる

これからの連携・連動 ～事業間の隙間を埋める～

- 認知症総合支援事業と一般介護予防事業の連携
- 在宅医療・介護連携事業と一般介護予防事業の連携
- 一般介護予防事業と訪問cや通所cとの連動
- 一般介護予防事業内での連動



これから考えるのは...
・横展開・拡大展開
・事業の厚み
・新規事業の検討



1.厚生労働省職員派遣による市町村支援

深谷市における地域支援事業の連携・連動を考える情報交換会

- 開催日 令和4年1月20日(木)10時から16時
- 会場 深谷市役所3階 大会議室
- 参加者 深谷市の地域支援事業に関わる支援者(42名)
包括支援センター主任ケアマネジャー、
在宅医療介護連携コーディネーター、
生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、
認知症初期集中支援チーム、チームオレンジメンバー
大里広域市町村圏組合介護保険課、保険年金課、
管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、
作業療法士、理学療法士、長寿福祉課

「いつまでも、元気でいたい。」を
かなえるために、地域支援事業で何ができるか。

1.厚生労働省職員派遣による市町村支援

情報交換会(市からの情報提供)

播種

※市の現状を伝えるために、KDBデータを活用。
見えるかシステムでは、広域全体の情報になってしまうため。

田中さんの講義のKey Word

- 関係機関・者・住民・市区町村内での目線合わせ
- 事業間連携におけるWin-Win
- 庁内連携におけるWin-Win
- 介護保険分野にとどまらない高齢者の生きがいきり・活躍の場の創出
- 地域包括支援センターが、介護予防ケアマネジメントに追いつけない事業展開

情報交換会(市からの情報提供)

深谷市の状況を共有

- イメージ図を作ったこと
- 事業ごとのボリュームは増していること
- なかなか事業間のつながりがないこと
- 住民への啓発や情報提供が不足していること
- 各事業には、支援者がたくさんいること

育成

情報交換会(田中さんの講義)

施肥

田中さんの講義のKey Word

- 関係機関・者・住民・市区町村内での目線合わせ
- 事業間連携におけるWin-Win
- 庁内連携におけるWin-Win
- 介護保険分野にとどまらない高齢者の生きがいきり・活躍の場の創出
- 地域包括支援センターが、介護予防ケアマネジメントに追いつけない事業展開

情報交換会(グループワーク)

【テーマ1】深谷市の地域支援事業の相互理解
【テーマ2】地域支援事業の深化に向けた取り組み(連携・連動方法の模索)

1.厚生労働省職員派遣による市町村支援

4. 情報交換会(グループワーク)

【テーマ1】

深谷市の地域支援事業の相互理解



関わっている事業を互いに紹介し、**相互理解**を促した
お互いに興味を持つのが、**相互理解の第一歩**

12



4. 情報交換会(グループワーク)

【テーマ2】

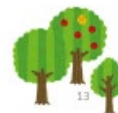
地域支援事業の深化に向けた取り組み (連携・連動方法の模索)



事業と事業を
つなげてみよう！

今、ここにはないものと
つなげてみよう！

お互いに理解を深めながら、想像、妄想、発想！



13



4. 情報交換会(グループワーク)

【テーマ2】

地域支援事業の深化に向けた取り組み (連携・連動方法の模索)

グループワークで発案した事業案



案①:「一生現役事業～もうかりませ～」

介護分野にとどまらず、商業、農業、趣味、地域活動、様々な場面で儲かる仕組みづくり

案②:「ナイトサロン」

デイサービスやサロン、住民主体の通いの場を夜間に開催

案③:「減塩プロジェクト」

まずは、市役所全体で減塩に取り組み、地元企業や住民に浸透させていく仕組みづくり

※これらは、情報交換会の最後には、提案した事業のお披露目と人気投票を行い、その結果、支持の多かった事業案です

14

5. 情報交換会の成果

※参加者アンケート抜粋



みんな、なにかに気づき、少し先の未来を共有できました。
この日の気づきを活かし、これから、連携・連動を深めていきます。

他職種の活動は、まだ知らないことが多い。自分から知りに行こうと思った。

様々な職種が日頃行っている事業を組み合わせることで面白い事業ができてきた。柔軟な発想の大切さを感じました。

自由な発想は大切だと感じました。

固定観念にとらわれない考え方をしても良いと思った。活躍の場や目標があらためて大切であることがわかった。

思った以上に他の職種の人々と連携・会話が不足だったことを自覚した。

深谷市にはパワーがあります！今日出たアイデアを是非実現していきたい！実施主体も協働体制にすればきっと実現できる。(富田)こうゆうようなことを考えているので、自分で考えていたものが形になりそうです。

各事業所の取り組みを知ること、たくさんの連携が取れることに気づかれました。

参加されている方皆さん福祉に携わって前向きで、行政も本来こうでいいのだからと、色々な意見が出て、こういう機会がもたらされたのにも関わらず、連携をすることで、自分で考えていたものが形になりそうです。

1つ1つの事業をつないで全体を連動させるようにいつも広く見ていくこと。深谷のテーマは認知症のことを考えている意見が多かったこと。

2. 支援を受けて～そして、その後～

令和4年8月19日 地域ケアマネジメント向上会議

テーマ: **みんなで描いた取組を実現に近づけるために(Ⅰ)**

参加者: 地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、薬剤師、理学療法士、作業療法士
管理栄養士、歯科衛生士、在宅医療連携コーディネーター



令和4年12月19日 地域ケアマネジメント向上会議

テーマ: **みんなで描いた取組を実現に近づけるために(Ⅱ)**

参加者: 地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、薬剤師、理学療法士、作業療法士
管理栄養士、歯科衛生士、在宅医療連携コーディネーター



【地域課題】		【解決策】
男性の孤立・家事をしたことがない	→	農業×料理×つながり
生きがいづくり・賃金を得る	→	高齢者のスキル×ICT×役割

令和5年2月27日 地域ケア推進会議

テーマ: **地域包括ケアシステムを深谷市に当てはめて考える**

参加者: 地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、医師、薬剤師、介護支援専門員
在宅医療連携コーディネーター、老人保健施設職員、老人福祉施設職員、認知症初期集中支援チーム員
自治会長、民生委員、老人会長、警察署



【地域課題】		【解決策】
つながりのある地域	→	できることから少しずつ 住民同士のあいさつや声掛け
ACP普及啓発	→	医師と住民と一緒に勉強

2. 支援を受けて～そして、その後～

これらの検討を経て...

【目標】いつまでも元気でいたい住民のために、
多様な選択肢をつくる

選択できるメニューを増やす

- ・男性が参加しやすい場面
- ・自宅から社会参加をかなえる方法
- ・世代を超えた相互理解
- ・参加者が支援者になる瞬間

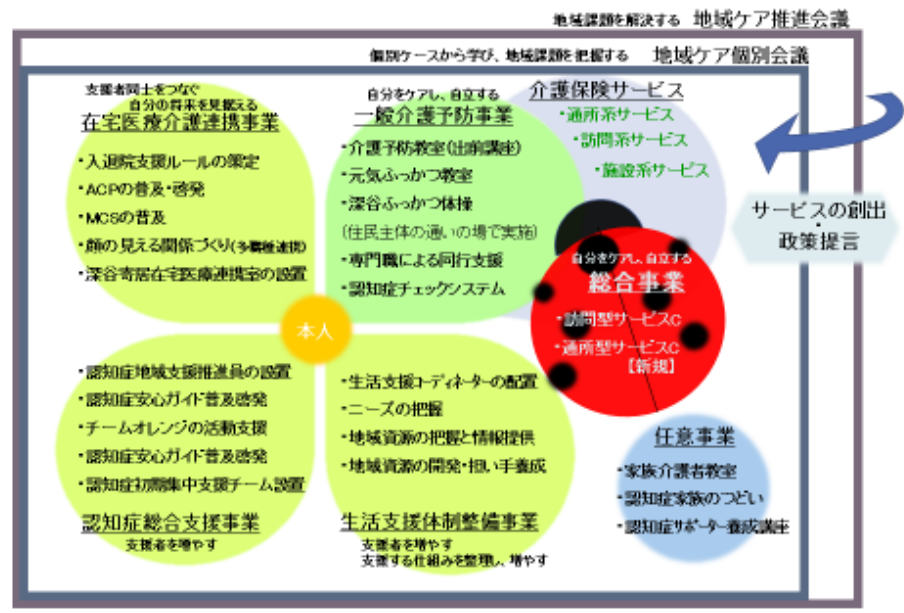
付加価値がつく

- ・役割がある
- ・楽しみがある
- ・仲間がいる、つながりがある
- ・支援者が同じ方向を向く

- 
- 今までの検討から、事業化できるものから事業化
 - 今実施している事業へ反映
 - 事業同士の四則演算を考える

2. 支援を受けて～そして、その後～

深谷市の地域支援事業



①この図を豊かにしていくこと
→ メニューを増やす
・協力者を増やす

②この図に思いや化学反応を描くこと
→ 付加価値がつく

① メニューを増やす

事業名	分野	協力者
男の野菜づくりと料理教室	一般介護予防事業 生活支援体制整備事業	NPO法人(農業) 管理栄養士、高校生
ロバ隊長作成ボランティア	認知症総合支援事業 一般介護予防事業 生活支援体制整備事業	ボランティア(当事者) 認知症地域支援推進員
団塊jr.向けACP普及啓発教室	在宅医療介護連携事業	医師、若い世代

2. 支援を受けて～そして、その後～

②付加価値がつく 事業と想定していた付加価値	役割	楽しみ	仲間・つながり	支援者の規範的統合	想定以上の連携・連動
【公設通いの場】元気ふっかつ教室		●	●		アリオ深谷(企業)が会場を提供
元気ふっかつ教室講師養成講座	●			●	ケア会議の助言者ではない、理学療法士が参加
介護予防サポーター養成講座	●	●	●	●	元気ふっかつ教室の参加者がボランティアへ
住民主体の通いの場支援		●	●		元気ふっかつ教室の参加者が通いの場を立ち上げ
男の野菜づくりと料理教室		●	●		高校生ボランティアとして、スマホの操作を指導
(予定)ノルディックポール教室		●	●		福祉用具業者が用具を提供
団塊jr.向けACP普及啓発教室				●	小学生の参加
ロバ隊長作成ボランティア	●	●	●		ステップアップ講座を受けた認知症サポーターとアリオで啓発活動
通いの場がチームオレンジに...	●	●	●	●	通いの場として、改めて認知症サポーター養成講座受講
(予定)地域通貨でボランティアポイント	●	●			庁内連携
地域情報サイト「ふかまるマップ」	●	●	●	●	情報提供の結果、ケアプランに社会資源が載る
栄養と口腔ケア教室		●	●	●	地域包括支援センターが介護予防に対する意識向上
深谷赤十字病院公開講座				●	市内の中核病院との関係強化
市内事業者アンケート調査				●	市内事業者と協力して事業化(家族介護者教室開催)
ケア会議の助言者→事業の支援者			●	●	薬剤師会の相談窓口開設、市の事業への協力

3. 新たな取り組み

ちっとやってみんべ！おかってチャレンジ！

男の野菜づくりと料理教室

全4回(月に1回)、紳士が集まって、活動する。

- ・ダイコンを種から育てる
- ・家庭菜園ができるようになる
 - ➡NPOアグリサポート深谷の力を借りて
- ・SNSを活用して、つながる
 - ➡除草や水やりに行ったら、写真やコメントを送りあう
高校生にSNSの使い方を教わる
- ・一人でもダイコン1本を調理できる
 - ➡管理栄養士の指導で、作った野菜を調理する

介護予防・生活支援
×
NPO・栄養士
×
高校生



【地域課題】

男性の孤立・家事をしたことがない

→

【解決策】

農業×料理×つながり

3. 新たな取り組み

家においても社会参加

ロバ隊長作成ボランティア

手芸が得意で、ひきこもりがちのかたに、
ロバ隊長のマスコットの作成を依頼し、社会参加への一歩を。

- ・アルツハイマー月間に向けて、
ロバ隊長の作成ボランティア
 - ➡認知症地域支援推進員の活動として、ボランティア募集
好きなことをして、誰かの役に立つ(生きがい)
- ・認知症サポーター養成講座を受けた
ボランティアが啓発として、配布
 - ➡認サポ受講者の活躍の場

介護予防・生活支援
×
認知症総合支援事業
×
ボランティア



【地域課題】

生きがいづくり・賃金を得る

→

【解決策】

高齢者のスキル×ICT×役割

3. 新たな取り組み

準備は早いほうがいい！

団塊jr.に向けたACP講座

高齢者が自分の将来のことを語りだしたときに、その子らが戸惑ってしまい、高齢者の話を聞けないことや、いざ、親の介護や急なけが・病気による入院の準備ができていないことから、若い世代へのACP普及啓発とそこに寄り添える支援者の確保のために実施。

・団塊jr.の心の準備ができる講座の開催

- ➡ 高齢者以外の参加者（親とともに小学生も参加）
医師とともに内容を作る

在宅医療介護連携事業

×
医師
×
若い世代



【地域課題】

ACP普及啓発

【解決策】

医師と住民と一緒に勉強

→

3. 新たな取り組み + a

公設通いの場から住民主体の通いの場へ

元気ふっかつ教室

新型コロナの流行で、なかなか再開しない通いの場。
市で取り組むからこそ、感染症対策しながら、
開催できる。

・地域の理学療法士を講師に

➡ 理学療法士向け講師養成講座開催

深谷ふっかつ体操と住民主体の通いの場を知ってもらう

・ショッピングモールでの開催

➡ 集まりやすさ、PR要素、ついで買い、企業の協力

・参加者がボランティアとして教室運営

➡ 参加者が卒業後、ボランティアとして活動

運営にかかわることで、住民主体の通いの場の開設へ

一般介護予防事業

×

ボランティア

×

専門職・企業



【地域課題】

つながりのある地域

→

【解決策】

できることから少しずつ

4.「今まで」と「これから」…

■ 相互理解から連携・連動

相手を理解することで、お互いの役割が自ずと見えてくる。まずは、相手の話を聞く。

■ 思いを共有する仲間

思いを共有すると、意外と同じことを考えている。共通のキーワードを大切に進めていく。

■ 進む力の後押し

それぞれが持つ得意を活かして、進む力を互いに後押しし、役割を果たす。

※一度だけ行うのではなく、繰り返し、テーマや参加者を変えて行うこと



4.「今まで」と「これから」…

そして…

**その人らしさを支える
深谷市らしさを見つけない**

